

## 0. 計画の背景

本町は、日常生活圏の拡大や住民ニーズの多様化、少子高齢化や厳しい財政状況など、近年の市町村を取り巻く社会情勢の変化に対応するために、平成 18 年椎田町、築城町の 2 町が合併し誕生しました。

合併以降、新町の本庁舎は、そのスペースの関係上、主要な本庁機能の一部を築城支所に置かざるを得ず、事務室、会議室等の狭あいさも更に顕在化し、庁舎としての機能低下や住民への利便性の低下が生じており、その根本的な対策が求められています。

さらに、本庁舎はエレベーターやスロープなどバリアフリーへの対応不足なども指摘されていますが、改修などによる対応は困難な面が多くあり、この解決のため、早期の新庁舎建設が望まれます。



外観イメージ

## 1. 設計方針

「築上町新庁舎建設基本構想・基本計画」における基本理念・基本方針に基づき、以下の設計方針とします。

### 基本方針

すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインが図られた庁舎

#### 1. 全ての来庁者にとってわかりやすく明快で、職員が動きやすい庁舎

- ・敷地条件と利用状況に則したわかりやすいアプローチ計画とします。
- ・窓口は、ゆとりあるスペースの確保や、わかりにくさや不便さの解消を行い、住民サービスの充実及び利便性、快適性の高い庁舎とします。
- ・誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを導入します。

住民のふれあいの場として親しまれる庁舎

#### 2. まちの人々が立ち寄りやすい開かれた庁舎

- ・「ちくじょうプロムナード」を設け、「庁舎」から「町」へ広がる配置計画とします。
- ・にぎわいの創出点として、町の人々が憩う住民プラザを設けます。
- ・住民活動を支え育むエリアとして、1階に休日開放エリアをつくり、住民が気軽に立ち寄ることができる親しみやすいスペースとします。

多様化する行政需要の変化に対応可能な庁舎

#### 3. 町の将来にフレキシブルに対応できる庁舎

- ・将来における人口減少や少子高齢化など、社会状況の変化による行政サービスの多様化に柔軟に対応できる、適正な規模の庁舎とします。
- ・施設の長寿命化を図るため、維持管理が容易にできる庁舎とします。

防災・復興拠点としての機能を十分に備えた庁舎

#### 4. 住民に寄り添い、防災拠点として地域と連携しやすい安全・安心な庁舎

- ・災害時に災害対策本部としての機能を十分に発揮できるよう、ライフラインの途絶に対して継続して機能維持できる庁舎とします。
- ・災害時の救援活動などの拠点として利用できる会議室や災害対策スペースなどを整備します。

省エネルギーに対応した経済的で維持管理のしやすい環境に配慮した庁舎

#### 5. 未来につなぐ環境配慮型の長寿命庁舎

- ・省エネルギー化や自然エネルギーの活用を行い、環境負荷低減に配慮するとともに、ライフサイクルコストを抑え、経済性を兼ね備えた庁舎とします。

築上町のシンボルとなるような庁舎

#### 6. 住民に愛され、町の魅力を発信する庁舎

- ・町並みの景観と調和を図り、町を象徴するものをデザインに取り入れた庁舎とします。
- ・京築ひのきを取り入れた内装計画とします。